

エンジニアパーク

Engineer Ring Park

私は学生時代を北見で過ごした後、札幌の株式会社シン技術コンサルで25年ほど都市計画・地域計画に携わり、2021年(令和3年)に技術士として登録することができました。時間がかかったぶん喜びもひとしお、などと感慨に浸っている間もなく技術士としての一年が過ぎてしまいました。

この一年で自分が技術士としてどれだけ成長できたかはさておき、「学び」と「継続」について近頃感じたことを記したいと思います。

2020年(令和2年)に発行された「独学大全」という800ページ弱もの分厚い本が20万部以上も売れているそうです。著者の「読書猿」氏の素性は明らかにされていないのですが、勤め人をしながら長年メルマガやブログを執筆されており、私も昔から愛読してきましたので、書籍が発刊するや購入しました(メルマガやブログ、というところが年期を感じさせます)。

独学者を支援するこの書籍では、学び方だけでなく時間の確保や継続のための仕組みについても章が割かれ、科学的な解説がなされており、とても実践的な内容になっています。そのうえ読み物としても面白く、どのような読み方もできる優れた構成になっているほか、意識や心がけといった精神論ではなく仕組みによって解決するという考え方は、怠惰に流れてしまう自分の性に合っていると感じました。

そんな良書に出会えたことを契機に、これからも技術者として成長していくため息の長い独学を続け、ひいてはこれからも北海道内の地域づくりに微力ながらも貢献できるよう、尽くしていきたいと思っています。

加藤 芳樹 (かとう よしき)

●建設部門(都市及び地方計画)

勤務先

株式会社シン技術コンサル



→次号は、石若勝俊さん(農業部門)

技術士を取得したのは今から25年前の1997年(平成9年)です。当時は技術士が少なく、企業の建設コンサルタント登録に多くの需要がありました。合格したときは「老後は安泰」と思ったものでした。その後、技術者要件で技術士資格が必要とされるようになり、養成講座の充実もあって技術士が急激に増えました。その結果、安泰な老後という夢が消え、年金受給年齢の65歳まで働かざるを得なくなりました。60歳以上の再就職が厳しい時代に、それなりの給料をもらって働けるのは、「技術士資格のおかげ」と自分を慰めています。

技術士に合格してすぐに北海道技術士センター(後年、日本技術士会北海道本部に統合)に入会し、様々な行事や活動に参加しました。当時は今よりも技術士会活動に寛大な企業が多かったような気がします。活動を通じて多くの技術士と出会い、実務で困ったときに助けていただいたことも数多くありました。現在は防災委員会の地盤部会に参加させていただいています。コロナ禍で会合はWEB会議となり、会合の後の意見交換会という名の楽しい飲み会もありません。また、テレワークという働き方が導入され、私も緊急事態宣言下ではテレワークでした。通勤が無く自宅で仕事ができるのは楽なのですが、長く続けていると人との関わりや繋がりが希薄になっていくような気がしました。

直接の会話ではなくスマホのLINEで会話が成立し、WEB飲み会という理解しがたいものがある昨今。時代についていけず、安泰な老後という夢も消えた昭和オヤジは、どこかの居酒屋でひとり寂しく、ボヤキながら飲んでいるでしょう。見かけたときは優しく声をかけてやってください。

大谷 高志 (おおたに たかし)

●建設部門(土質及び基礎)
総合技術監理部門(建設)

勤務先

株式会社ユニオン・コンサルタント



→次号は、加藤輝美さん(建設部門)